

市長記者会見記録

日時：2020年7月6日（月）14時00分～14時37分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

<市政一般>

<本市の事務事故等の頻発について>

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。

本日の議題は、市政一般となっております。

早速、質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いたします。

【幹事社】 まず、幹事社から質問いたします。

2点いたします。最初の1、今日の1時に、市バスの運転士さんのまた懲戒処分的事件が出ましたけれども、最近、川崎市のほうでいろいろ事務事故とか、そういう不祥事が相次いでいる状況があると思うんですが、この現状についてどう思われているかということと、あと、何が原因か、どうすればなくなっていくかということについて、まず伺いたいと思います。

【市長】 本当にこれだけ事務ミス等々多発しているということは、本市の信頼が大きく揺らぐ、一つ一つの細かいことがこのように間違っただけで御迷惑をかけるというのは、市政そのものの信頼を損なってしまう大変憂慮すべき事態だと思っています。

要因については、何か1つということではなくて、極めて複合的な要因だと私は受け止めておりますけれども、これまでも本当に続いておりますので、繰り返し私からも、文書でありますとか口頭で繰り返し言っておりますけれども、最近では、とにかく前回の定例局長会議でも、何でだ、どうしてだと言っても、あまり建設的な話ではないので、とにかくどこにヒヤリとか、はっとするようなものが隠れているのかということ、みんなでそれぞれの課だとか、それぞれの部内でしっかりと前向きに出してもらえるような環境というのをつくることから始めないといけないんじゃないかと。もう1回、ここはちょっと危ないよねとか、そういうのが必ずあるはずだと。それをやはり細かい単位で、みんなで声出し合ってやっていくような雰囲気をつくらないといけないと思いますし、まず、それぞれの各局が、他局でこんなことあったよねとい

うのを、自分のところでもあり得るなどか、自分ごとにしない限り、同じようなことというのは次々出てくると思っています、そのところをしっかりと徹底していくということをこれからも引き続きやっていきたいと思っています。

一連のことについて、本当に改めて市民の皆様におわびを申し上げたいと思っています。

【幹事社】 先日、やっぱり危機的状況だというふうに市の考え方をおっしゃっていたと思うんですけど、市長としても、今のこの現状、御自身が市長になられてから今の現状というのをどう取られているか、捉えられていますか。

【市長】 本当に私自身も危機的な状況だということを繰り返し申し上げているところで、本当そのとおりです。一連のをずっと並べて傾向だとかを見てみますと、それぞれいろいろあるんですけども、例えばシステムの変更だとかあったときに、ここをやっぱりミスっているよねとかというのはいろいろあるんですが、昔に比べて、自分で完結するというよりも事業所に依頼したりとかという、何となく自分の責任でなくなっているかのような捉え方というのがあるんじゃないかという感覚があります。ですから、最後まで、終わるまでが自分の仕事ということをやっぴり思っておかないといけないと思いますし、繰り返しになりますけど、自分ごとになっていないというところは非常にまずいなと思っています。

【幹事社】 今後、具体的に市長として機会を捉えてだと思んですけど、直近で何か行動をされる、注意喚起のために何か取られるということはありますでしょうか。

【市長】 先日も、例えば教育委員会で、USBを持ち出して紛失したということがありまして、そこで私から教育長に、とにかく抜き打ちで、もうすぐチェックしてくれと。全校で今、登録されていないUSBを使っている人はいないかというのを緊急にチェックしてくれというお願いをしまして、結果、何と10%の教員から、台帳に登録していないUSBを使っているという現状が明らかになりました。

このことをどういうふうに捉えるかということなんですけれども、正直、働き方改革とか取り組んでいる中で、どうしても家に持って帰らざるを得ないというような、例えばの話です。これがそうだとやっているわけではありませんで、もしそうだとすれば、問題はまた別のところにあるだろうと思いますし、ただ、そもそもいろんな情報漏えいと、USBの持ち出しというのが駄目だと言ったから、こういう仕組みをつくって、それでも駄目だという、そういう仕組みをつくったにもかかわらず、まだ個人のUSBを使っているというのは、そもそもが駄目でしょうと。

だから、今回、起こした事案の先生の個人の素行だとか、何だとかということ以前に、10%の教員がそれを使っているということ自体、恐らく10%の教員が使っているということは学校自体、みんな知っているはずですよ。ですから、そういう意味で常態化している、当たり前になっていると。

ルールは何だったのかという根本的なところが問われていると思います。ですから、これは教育委員会だけではなくて、市長部局のところも含めて、もう1回、しっかりと洗い出さなくちゃいけないと思っています。

内部統制制度が始まって、昨年からトライアルでいろいろやってきて、そういった意味で浮き彫りになっていることはたくさんあると思います。そういった意味では、しっかり運用していったということによって、大きな事件ということを起こさないためにも、細かいところをしっかりと詰めていくということを徹底していきたいと思っています。

《東京都知事選挙の結果について》

【幹事社】 もう一間、全然別の話なんですけれども、昨日、小池百合子さんが受かりましたが、コロナの関係でいろいろ連携してやることもあるかと思いますが、小池さんへの何か、メッセージというか、小池さんが勝ったことで御所感みたいなことを教えていただけますでしょうか。

【市長】 そうですね。改めて、おめでとうございますと申し上げたいと思いますけれども、このコロナのことでもそうですが、いかに東京と、経済圏というか、生活圏というのが川崎とほぼ一体になっているということが分かっておりますので、そういった意味では、政策だとか、様々な事業の連携というのは、さらに深めていかなくちゃいけないなと思っていますし、東京を含めて首都圏全体の連携というのをさらに強めていかないと、この難局は乗り切れないと思っていますので、ある意味、首長同士も、議会同士もという形で連携をさらに深めていきたいと思っています。

【幹事社】 ありがとうございます。

【市長】 議会のことを私が言うのも何ですけど。はい、失礼しました。

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例関連について》

【幹事社】 引き続き幹事から、すみません。

【市長】 はい。

【幹事社】 2点ほど。先日、差別のない人権尊重のまちづくり条例に基づいて、差別防止対策等審査会が初めて開かれました。委員の方からは、ツイートを全部、読むとか、その文脈を読むことですか、例えば資料の出し方についていろいろ注文が話

されたと聞いています。終わった後に取材に応じた会長からは、市民がインターネットの被害にさらされ続けている状況については、個人的には何とかならないものかというふうな言葉があったり、審査会の開催についても、なるべく早く開催していきたいと、あとは市の準備ぐらいの問題だというふうな言葉があったりとかして、結果的に、その場に出されたものについても判断ということには至らなかったわけですが、審査会の在り方、進め方について、何か改善点というか、お感じになられるところがあったら教えてください。

【市長】 様々な御注文を頂いたと聞いておりますので、そこを一つ一つ改善して、審議会というものが円滑に回るような準備というのは、これからしていかなくちやいけないだろうなと思っていますので、適切な対応をしっかりとやっていきたいと思っています。

【幹事社】 それはやっぱり審査会の意見を踏まえて判断をしていく、措置を取っていくということももちろん大事だから、そういう仕組みになっているんですけども、一方で、ネットの被害の特性として、やはり被害者とすれば、放っておけば拡散していくわけですし、その間、被害もずっと継続しているということになりますから、迅速に削除要請をしてほしいというふうなことも、一方での被害者としての思いだと思いますけども、その辺りについては、市長、どのようにお考えになられていますでしょうか。ネットの被害について。

【市長】 被害者の方の被害、お気持ちというものを非常によく分かる一方で、それぞれの案件で、重い案件でありますので、丁寧に注意させていただかなければならない部分というのが多いと思います。ですから、そこは非常にバランスの問題だと思いますが、いずれにしても、審査会が適切に運用できるように、事務局としてもしっかりと対応していかなくちはいけないと思っています。

【幹事社】 分かりました。

もう1点ですが、今度、12日ですけれども、川崎の駅前で、これまでの発言を見るとヘイトスピーチと思われる発言をしている人物たちが駅前で街宣というものを告知をしております。実は昨日、5日にも、その団体が駅前で同じように街宣をしております。発言を確認すると、コロナウイルスについて特定の民族のせいにして、その民族の蔑称をわざわざ使って、この民族は凶悪な民族なんだとか、犯罪をたくさん犯しているんだとか、あるいは天罰を下さなければいけないといった、その民族を一くくりにして、差別と憎悪と暴力までもあおるような発言をしております。

市長はかねがねこの条例の施行に当たって、この町では差別は決して許さないんだ

というふうな決意で当たるんだと、そんなことをおっしゃっていましたがけれども、今度は12日ですね。市民からは、犯罪の被害を未然に防ぐというふうな立場でこの条例が機能していくということを期待しているというふうな声が上がっております。12日の街宣に当たって、市としてどのような姿勢で、情報収集に当たるとかということも聞いておりますけれども、どのような姿勢で臨むのかということをお教えください。

【市長】 今後の話について、予定を持って何かどうのこうのというふうなことは差し控えさせていただきたいと思いますが、いずれにしても、条例に基づいて適切な対応をしていきたいと思っています。

【幹事社】 その情報、もちろん発言があったかどうか、ヘイトスピーチがあったかどうか、自己の判断になってくるわけですがけれども、その前提としては、やはり記録を取っていく、どのような発言があったかということ把握していくということが大事になってくると思うんですけれども、その辺りで、職員を派遣してきちんと記録を取ってくるというお考えは。

【市長】 繰り返して恐縮ですが、条例に基づいて適切な対応を取っていくということをお願いいたします。

《新型コロナウイルス感染症関連について》

【幹事社】 幹事社です。

2点、こちらもございまして、まず新型コロナウイルスに関してですけれども、隣接する東京都では、ここ数日、100人を超える状態が続いていまして、川崎でも10人前後で、陽性の人が毎日、判明しているということで、昨日も10人ということで、この今の状況について、どのように受け止めていますでしょうか。

【市長】 そうですね。先週から比べて数値というのは高くなってきているという傾向がありますので、これまでの東京だとかという、表現が正しいかどうかは分かりませんが、第一波のときの傾向と同じように出てくるというのは一定程度、致し方ないかなというふうには思っていますが、直ちに、これをもって何かが変わるという局面だとは思っていません。

引き続き、もう言い古されている言葉かもしれませんが、やはりしっかりと3密を避ける行動を徹底していただくということに全く変わりはありませんし、それから、報道等でも出ていとおりに、ここに出ていくなと言われていた地域、あるいは、感染対策がしっかりと行われていない場所といったところには、行っていただくということを控えていただきたいと思います。それがあある意味、唯一の道だろうと

思っています。

【幹事社】 そうしますと、今の時点では何か、市としての政策について変更したり、何かを加えたりするようなことは考えていないと。

【市長】 現時点ではそうですね。

《川崎じもと応援券について》

【幹事社】 はい、分かりました。

もう1点、川崎市の緊急経済対策として行いました川崎じもと応援券について、先週金曜日が申込みの受け付け締切りでしたが、申込み状況はまだ集計中というタイミングだと思いますが、かなり厳しかったのではないかとと思いますが、この状況と、それに対する市長としての受け止めをお聞きしたいのですが。

【市長】 今日の朝9時時点ですけれども、6万6,530人から購入希望がございまして、これはホームページとはがきからを両方足してです。トータルで24万3,181件という購入希望というものが今朝の段階で来ております。

87万冊発行で、この数字ということでは、まだまだ達していないということですので、今後の話になりますけれども、2次募集を考えております。

ちょっと詳細、いつ、どのタイミングでやるかというのは、今、事務局のほうで検討中ということでありましてけれども、要因としては、店舗の数というのが最近では徐々に増えてきていますけれども、当初の滑り出しというのはなかなか厳しかったかなと思っています。

それと、どうしても、これは制度上というか、趣旨の上で、趣旨が地元の中小企業を応援するというので、大型量販店だとか大型スーパーだとかというのを除いているということが売上げのところに影響しているのかなと思いますけれども、地元を応援するという趣旨というのがさらに知れて、知らしめていけば、今後、また購入いただけるのではないかなと、少し希望的にはそのように思っております。

【幹事社】 そうしますと……。

【市長】 今後、ポスターが、今、利用可能店舗数ということ、登録いただいた方2,084件ございますので、そこにドラえもののポスターがどんどん貼り出されていくと、何となく、何だ、こりゃと、知らない方も、これは何というというような話になっていくのではないかなということを希望し、期待しています。

【幹事社】 そうしますと、2次募集に当たっては、そのPRといいますか、広報のやり方を今までとはまた違う形で行う。

【市長】 そういう形ではなくて、ポスターとかが貼り出されると、必然的に相当広

報ができるのではないかなと思います。いろいろ工夫はしてみたいというふうには思いますけれども、劇的に何かを変えとかということでは、今のところ、考えておりません。

【幹事社】 分かりました。ありがとうございます。

では、各社さん、お願いします。

【記者】 じゃ、すみません。

じもと応援券の話から聞きたいんですけど、先ほども、まだまだ達していないというか、まだ3分の1にも達していないという、この数字について、2次募集というのは、まだ検討はするというふうには聞いていますけれども、何かそれが正式に公表されたわけでもない状況で、当面の締切りとして設けたものとして、87万に対して24万という数字は、今、全然達していない。その達しなかったことについて、どういふふうを受け止めておられるのか。そもそもこの話は2次募集ありきだったのか、そこも含めて現状をどういふふうを受け止めておられるのかということをお伺いしたい。

【市長】 そもそも販売するのを3回に分けているということからすれば、当初から2次募集、3次募集をかけるということは想定していませんでしたけれども、そういう意味では、1月まで使えるということでやっていますので、何回かに分けてやっていくのもベターな選択ではないかなと思っています。

24万数千冊にとどまったといったところの評価というのは、多かったのか少なかったのかというのは、いろいろ評価はあると思いますけれども、87万冊出ていて、やりますと言っていて届かなかったということは、率直に言えば残念だなという感覚はありますが、それに対して別に何か……。何だろうな。何か反省することあるかということは、特にそういう思いはないですけども。

【記者】 なるほど。

【市長】 はい。

【記者】 追加募集をすることがありきでなくて、初回の募集で87万冊を発行することを数字として掲げた以上、それが3分の1にも届かなかったということに関して、少なかったとは思わないということ。

【市長】 いやいや、少なかったと。先ほど言ったように少ないですよ。

【記者】 なぜ少なかったんだというふうに。要するに3分の1にも届かないというのは、率直に言って惨たんたる結果だと言って過言ではないと思うんですけども、そういうふうな御認識、まず市長のほうにあるのか。

【市長】 はい。

【記者】 そして、もしそうだとしたら、何に起因するものだったのかというふうに見ていらっしゃるのか。先ほど趣旨が伝わらなかったということをおっしゃいましたけれども、制度の趣旨というものが。

【市長】 趣旨が伝わらなかったとは申し上げておりませんが。

【記者】 そうですか。地元の企業に限ったのが影響しているのか、趣旨が知られていないということで、今後は購入があると希望的に見ているということは、現状では趣旨が伝わってないということだと私は受け取ったんですけれども。

【市長】 制度が伝わってないんだと私は思います。趣旨がというよりもですね。そもそも制度を知らないという方というのはまだまだいらっしゃると思いますので、そういう意味では、もう少し違う広報の仕方があるのかなと、改善の点があるのかも知れませんが、少なくとも、惨たんたるありさまというふうなことは思っておりません。

【記者】 なるほど。そうすると、当初のこの87万という数字の目標設定自体がそもそも過大だったんじゃないかと、単純に今の現状だけ見ると、まだ追加募集するということが決定されていない、今の状況では、もう申込みが終わっている状況なので、87万、売ります。それに対して申込みが24万しかありませんでしたというのが、まず当初の組立てとして87万が妥当だったのかという話にもなってくると私は思っているんですが、その辺はどういうふうにお考えになっていらっしゃいますか。

【市長】 これからも含めて広報をしっかりとやって、2次募集なのか3次募集なのか、どこまで続くか分かりませんが、せつかくやり始めたものですから、しっかりと皆さんに買っていただいて使っていただけるように、それにまず全力を挙げることが大事かなと思っています。

【記者】 なぜ伸びなかったんだと思っていられませんか。その利用登録店舗というのが少なかったというふうに先ほどもおっしゃいましたけれども、利用登録店舗というのは、目標としては5,000という数字を掲げておられて、それに対して2,084件、それは期間が短かったのか、アピールの仕方がまずかったのか、市内の地域の事業者というもののニーズとのミスマッチがあったのか、どこら辺に起因していると思っていられませんか。

【市長】 分析はまだ、今後しっかりとやりたいと思います。

【記者】 現時点ではどういうふうにご考えていらっしゃいますか。

【市長】 先ほど申し上げたとおり、店舗が登録数、最初の頃、伸び悩んだことによって、これはなかなか地元で使えるところはないなと思って買い控えた方という方も

いらっしやると思いますし、そもそも10万円がまだ振り込まれてないから買うに至らないということもあるでしょうし、先ほどの繰り返しになりますけれども、大型店舗で使いたいというニーズがあるにもかかわらず、対象になってないというところで購入に至らないというケースもあるでしょうし、それぞれ要因はあると思います。

【記者】 分かりました。申込みに関してはそうだと思うんですが、その申込みの要因が、申込みがあまり伸びてない理由の1つとしては、当然、利用可能店舗というものが前回の商品券よりも大幅に少ないということが1つあるのかなというふうに素人考えで思っているんですが、2,084にとどまったというのは何でだと思っていらいっしやいますか。周知期間が短かったということなのか、周知の方法がまずかったのか。

【市長】 それはもう少し分析が必要かなと思いますね。

【記者】 そうですね。分かりました。取りあえず、その……。

【市長】 それは何とでも言えると思いますよ。期間が短かった、使える店舗をもっと多くすればよかった、範囲を広げればよかったじゃん。やってみて、駄目だったら、幾らでもその話は言えると思うんですが、いろいろなのがあると思いますからね。

【記者】 すみません。これはもう前提として、今はまだ追加募集をしますということが公式にアナウンスされていない状況なので、それも当初の計画では追加募集することも当然、話になかった状態なので、現時点というのは、あくまでこういうものを募集します、それに対して締切りが終わりました、それに対しての現状というのはこうですというものを前提で、今、お話をしているので、まだそこまでさばさばというより、何というか、と私は受け取っているんですけども、あまり危機感はないというような感じが見受けられたので、そこは何でなんだろうというのは率直に思っているんですが。

【市長】 いや、危機感ないって、いや、危機感ないことはないですよ。しっかり売っていきたいと思いますし、これからも。これからも広報していきますから。

【記者】 いや、だから、そのためには、今までは何がまずかったんだろうというこの分析というのが、これからやりますというふうにおっしゃいましたけれども。

【市長】 いや、繰り返し言ってますけど。

【記者】 はい。

【市長】 同じことを何回も言う、それでは。ですから、理由って、可能な店舗が少ないだとか、あるいは繰り返しになって恐縮ですけど、そういうことがいろいろあるんでしょう。それがどの程度効いているのかというふうなのは、それはもう少し時間

をかけて分析するべきだと思ってます。

【記者】 なるほど。そうすると、それを分析した上で、追加募集というのはどれぐらいのタイミングで考えていらっしゃるんでしょう。

【市長】 それはまだ検討中です。

【記者】 まだ全く未定ということですね。

【市長】 はい。

【記者】 分かりました。先ほど不祥事が続いているということに関して、具体的な注意喚起というものは何かあるんでしょうかというようなお話なんですけれども、USBのことを例に挙げていただいて、私のほうで聞いている限り、6月の初頭の頃にも、市長名での注意喚起の文章というのを出された後、もちろんその以前に起きていたものが後になって聞かされるというものは幾つかあったかとも思いますが、そういうものが出ていた中でも起きたものが幾つかあったかなと思います。そういう意味で、注意喚起をこれまでのような形でしていても、まだ起きるという状況について、率直にどういうふうに捉えていらっしゃるのかということと、先ほどの風土の話ということもされましたけれども、ちょっと私もここ3年ぐらい、川崎市役所の不祥事とかを見ている中でも、この年度変わってからの事務ミスというのは、ちょっと特異的な出方をしているんじゃないかと感じている部分もあって、何に起因しているものなんだろうと、市長は今の時点で捉えていらっしゃるか、ちょっとお伺いしておきたい。

【市長】 まず1つ目のどう捉えているかというのは、先ほどお答えしたとおり、大変深刻な事態だと受け止めています。その理由は何かと言え、これもまた先ほどもお答えしましたが、いろんな理由がその背景にあると思っています。例えば、これも注意喚起したことですけれども、何か仕組みが変わるとか、あるいは今回、コロナのところで在宅になるといった、こういうタイミングというのは一番危ないと。環境が変化したときに必ず何か起きる、ミスが起きる可能性があるから、みんな気をつけようという事前的な注意喚起というのもいたしましたが、それでもやはり起こってしまうということは、繰り返しになりますけれども、そのことというのが自分ごとにそれぞれなっていないということに結果としてなるのではないかと思います。

【記者】 なぜ自分ごととして捉えられないんだろうというのが、これまでも、多分いろんなタイミングで市長もおっしゃってきたんだろうと思いますし、先ほどのUSBの話为例に引くまでもなく、ルールはルールとして定めたものがそもそも守られないというのは、これはどういうことなんだろうなと思っているんですが、それはどういうことなんだろうと思っていられませんか。

【市長】 大変残念なことでありますけれども、自分の1つのミスというふうなのがどれほど市政に対する信頼度、信頼感を失うかということの想像力の欠如だということはあると思います。ですから、なかなか他局で起こっていることというのが自分ごとにならないということ。同じようなことというのはあり得るということになっているんだと思います。

それと、昔に比べてというふうに言ったらあれですけども、人間的にも非常にみんな厳しい状況にあります。どこも、市民の皆さんからすれば昔の公務員の感覚で、そんなに忙しくないんでしょうみたいな、そういう感覚でいらっしゃる方もいるということは、僕は感覚としてよく分かります。しかし、もうそんな時代では全くないし、みんなぎりぎりのところで一生懸命やっている。それが言い訳には全くなりませんが、しかし、ダブルチェックをするというよりも、むしろダブルチェック以前に、シングルチェックも危うくなってくることを、やはりそれは意識の部分と、それから、本当の仕事の量という意味で、忙しさというのは一頃、一昔と比べては全然違うということは、職員みんなが感じていることだと思います。

ですから、そのこの辺りというのは、仕事の量と、それと人員配置というものが本当に適正に行われているのかということは、そこはしっかりと見ていかなくちゃいけないと思っていますし、より精度を高めていかなくちゃいけないなと思っています。

【記者】 その仕事の量と人員配置の適正化という、そこを見極めるというのは、そこもあるんですけども、先ほどおっしゃったように、ルールとして定めたものがそもそも10%が守られないというのは、何というか、それをやられちゃったら、もうどうしようもないんじゃないかと思うところもあるんです。これ、どうやって改善するんでしょうね。

【市長】 そこを先ほど申し上げたとおり、もう少し深く見ていきたいと思っているんですが、そもそもとんでもない話なわけですが、ただ、そのとんでもない話の理由は何にあるのかということをもう一段掘り下げて聞いていかないと、何だ、このやろうと言って、こうやったと言っても、そこで解決になるのかと。それは恐らくならないんだと思います。そこをもう少し掘り下げていきたいなと思いますし、それは組織としてしっかり対応していかなくちゃいけないと思います。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【記者】 すみません。また、じもと商品券の話なんですけれども、これまでに申し込んだ人は、これは全員当選ということになるんでしょうか。

【市長】 そうです。

【記者】 あと、さっき、2次募集、3次募集という話でしたが、利用期間の延長ということはお考えですか。

【市長】 現時点ではありませんが、正直、感染の状況というのはどうなるかというのが1つ、考慮になると思いますが、現時点では考えておりません。ただ、なかなか外出、万が一の話ですけれども、外出禁止みたいな、禁止というか、自粛の話が出てきた場合にはそもそも使わないわけですから、そういった意味では、その可能性自体は否定しませんけれども、現時点では考えておりません。

【記者】 なかなか感染拡大が収束したような、してないようなという状況が続いていることというのもマイナスのような感じがするんですけども、このタイミング、7月から利用ができるようなタイミングでというのは、これは当初からの想定どおりになってしまったわけですか。

【市長】 それはそうです。なるべく早くということで作業を進めてきた結果が7月の中旬以降でということですよ。

【記者】 分かりました。

それから、これ、運営社というのはどこになって、手数料って多分、発行冊数が変わっても変わらないんですよ、事務手数料みたいなものというのは。

【市長】 若干、何にかかっている手数料とかという、誰か答えられる人って来ていませんか。若干申し訳ありません。変化があるかもしれませんけれども、それについては、また後ほどお答えさせていただくような形でもよろしいでしょうか。

【記者】 分かりました。いや、この先、その87万冊というのは必ずやり遂げるんだという感じなのかどうなのかというのが今までのやり取りを聞いて、いまいち分からなかったんですが、地方創生臨時交付金を何に充てるかという議論の中で、多分これは出てきたものだと思うんで、仮に要らないとなれば、予算を減額して、ほかに回すとか、そういうアイデアというのはないでしょうか。

【市長】 まだ、そういう意味では事業展開途中ですから、今、これを言うのは適切ではないと思いますが、一般論で申し上げますと、ほかの施策も含めて、それほど利用されなかったというものについては減額ということもあり得ますし、そういう意味では、1次補正と2次補正のところというのは、区分けがないということでもありますから、より有効なところに転換していくということは、一般論としてはあります。

《地方創生臨時交付金関連について》

【記者】 1次補正と2次補正というのは、国の交付金の。

【市長】 そうですね。

【記者】 一次でつけたものと二次でつけたものの区分けと。

【市長】 はい。

【記者】 分かりました。

すみません。今の関連ですけど、二次補正のほうでついた、後のほうでついたほうはかなり配分額もよかったように思いますが、そこは感想とか、受け止めというのはどうですか。

【市長】 そうですね。これまで指定都市、市長会としても、あるいは本市独自でも要望活動を続けてきて、かなり国のほうでも、指定都市はちょっと一次補正のときは厳しかったよねという認識は拾っていただいて、二次補正ではそういった形で大きな改善が見られたと思っています。

一方で、財政力のところというのは一部、残っているところがありますので、そこというのは引き続き課題ではあると思っていますけれども、しかし、大幅に改善されたというふうに歓迎しています。

【記者】 一部残っているというのは、財政力は、この交付金の性格を考えると、財政力関係ないじゃないかということでしょうか。

【市長】 そうですね。

【記者】 はい。分かりました。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日の市長会見を終了といたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355